松小だより

10月号

高松市立松島小学校

「実りの秋～充実した二学期に～」

朝夕涼しくなり，秋の訪れを感じます。新校舎に移ってから早いもので６ヶ月たちます。子どもたちは，学校生活にも慣れ，夏休み中に整備され広くなった運動場で遊ぶ姿をよく見るようになってきました。

昨年１年間は，運動場がとても遠く，一部の子どもしか遊びに出ていませんでした。その影響もあってか，全校生の運動能力は残念ながら全国や香川県・高松市の平均を下回っていました。そこで４年生以上は，朝の体力つくりということで，約１ヶ月半の間，これまでの朝の活動を取り止め，毎朝運動することにしました。

広くなった運動場での朝の体力つくり

運動が苦手な児童も楽しく参加し活動できるようコースを自分で選択できるようにしたり，活動内容を工夫したりして進めています。

現在は，朝の体力つくりも習慣化し，集まった児童から準備体操するなど自主的な行動が見られるようになりました。検温等体調管理をきちんとしての約１ヶ月半の練習は，全員の体力向上はもちろん「継続する力」「困難なことにもチャレンジする力」の育成につながっていくと考えています。朝食の摂取・検温等のご協力よろしくお願いします。

なお，下学年は従来通り，読書・視写等の学習を続け言語力向上の基礎を養っています。

「～子どもたちにつけたい力～」

７月中旬，松島小学校閉校記念誌掲載のため，「歴代校長先生 松島小学校の想い出を語る会」を開催しました。第１６代校長の樋笠先生（９５歳）をはじめ７名の校長先生がお集まりくださり，お勤め当時の想い出を資料をもとに語ってくださいました。その中で，どの先生にも話題に共通して出ていた言葉が，「子どものためにできること」「地域とのつながり」「異年齢の交流」「確かな学力」「当たり前のことが当たり前にできる」等の言葉でした。

その中でも，２０代三木校長先生が発案された「松島小合い言葉」である

ま…真心こめて挨拶
つ…常に揃った白い靴
し…白帽かぶって黙って清掃
ま…まっすぐ歩こう静かな廊下

は，語る会の話のなかでも，脈々と受け継がれてきたことが確認されました。

また，９月中旬には，今年夏ベルリンで開催された世界陸上で金・銀・銅メダルを獲得した選手を育てられた陸上部監督の福島大学教授　川本　和久　先生の講演をお聞きしました。そのなかで，何度も出てきた言葉が「選手を育てていくうえで大切にしていることは，専門的な技術より，挨拶・返事，靴を揃えるなど，人として当たり前のことが普通にできるようになることである。基本的な生活習慣がきちんと出来る子は，話がきちんと聞けるし，技術的な伸びも違う。」でした。

語る会と講演の基調とする内容がとてもよく似ていたので，改めてそのことの大切さを感じ，引き続いて実践していきたいと考えています。